



熱気あふれる 石岡のおまつり

Passionate Ishioka-no-Omatsuri
Hitachi-no-Kuni-Soshagu-Reidaisai, often called Ishioka-no-Omatsuri,
is a distinguished grand festival known as one of the three major festivals in Kanto.

ひたちくに そうしゃぐう れいたいさい
「常陸國總社宮例大祭」、
通称「石岡のおまつり」は
関東三大祭りの一つと言われる
由緒ある例大祭です。



山車大行列

2日目の奉祝祭の夜に豪華けん
らんな各町の山車が御幸通りを
巡行します。



ほろじし 幌獅子

車輪を付けた車体の上に小屋をつくり、布の幌(胴幕)をかけた獅子です。各町内独自の幌獅子があり、幅50~60cmの獅子が舞う姿は勇壮なものです。「獅子に頭を噛まれると丈夫になる」と言われています。



時代を超えてふるさとに
受け継がれてきた熱い想いを伝える

お祭りの流れ

1日目の神幸祭は總社宮の御神体を神輿で年番町の御仮殿へお迎えする祭です。總社宮本殿に各町内の氏子代表が参集して、発輿式が行われます。2日目の奉祝祭は總社宮境内で奉納相撲(茨城県高等学校相撲選手権大会)が行われるほか、幌獅子や山車のパレードが行われます。そして3日目の還幸祭では、年番町御仮殿より神輿が出御し、神幸祭と同じ供奉行列で本殿へ還御し、年番町の引き継ぎが行われます。

「石岡のおまつり」は関東三大祭りの一つと言われる常陸國總社宮の例大祭です。天下泰平、国家安穩、萬民豊樂、五穀豊穰などを願う祭りとして、毎年9月の「敬老の日」を最終日とし、3日間にわたって開催されます。期間中は40万人を超える見物客でにぎわい、まち一帯がおまつり一色となります。

豪華な出し物がまちなかを練り歩くものへと変化し、現在の基礎が築かれていきました。神輿や40数台の山車と幌獅子が市内を巡行する様子は圧巻です。軽快な石岡囃子のリズムがおまつりの熱気をさらに盛り上げます。

また、石岡のおまつりは明治20年(1887)以降に確立した毎年交代で務める年番制度による「年番町」を中心に行われ、現在は15町内が参加しています。

石岡市民にとって、1年間で最も熱くなる3日間です。

まちが、人が一つになる瞬間

Guide to Ishioka collector's items
We introduce the famous local specialty of Ishioka
grown in a rich environment



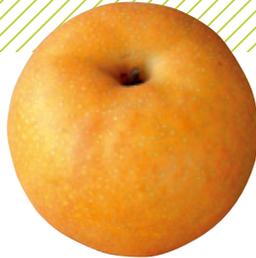
やさ観光果樹組合 組合長
内田 一久さん

八郷では1年中果物狩りを楽しむことができます。お客様には家庭的な雰囲気味わってもらい、また来ていただけるようなおもてなしをしています。果物の甘さには自信を持っているので、石岡市の知名度をもっと上げて、宣伝していきたいです。

果物

Fruits

石岡市には、筑波山系の豊かな水と温暖な気候の中で育てられた栄養満点の果物がたくさんあります。年間を通して、様々な種類の果物狩りを楽しむことができます。



酒

Sake



地酒の普及と市内産業の発展を目指し、平成26年3月『石岡の地酒』で乾杯を推進する条例が制定されました。市内4つの酒造会社の活動を応援しながら、販売普及やキャンペーンなど、市の活力アップを進めています。

石岡

逸品

図鑑



豊かな恵みの中で育った
石岡自慢の特産品を紹介します。

石岡の地酒で乾杯推進協議会
会長
冷水 豊国さん

日本酒は水が命です。石岡市には筑波山系から流れてくるおいしい水があるので、全国的に見ても引けをとらない酒づくりをすることができます。この地の良質な素材を使用した石岡のお酒のおいしさを多くの方に知ってほしいと思っています。



一流のぶるやと巡り

グルメ

Gourmet

地元産の食材を使用した石岡市のグルメは、子どもから大人まで人気があります。風味豊かなそばをはじめ、伝統の味を守り続ける佃煮や菓子類は、地元だけでなく県外でも人気があります。また、表に「いしおか恋瀬姫」をデザインし、裏面に市の概要を紹介しているブランド米は、冷めても粘りがあることが特徴です。

- ① 米「恋瀬姫の舞」
- ② そば
- ③ 銘菓「釣鐘最中」「小判石」「上代ががみ」
- ④ 佃煮
- ⑤ 納豆「やさと納豆」「これがやさとの恵みだ」

3



2



4



5



1



6



伝統・工芸

Tradition and craftwork

石岡市には、長い間受け継がれた技術を駆使して、つくり続けられている工芸品があります。弓質の良い矢は今でも人気が高く、杉線香も昔ながらの製法で一つひとつ丁寧に作られています。また、地元産品の素材を使用した味噌やジャムは土産にも人気です。

- 6 味噌
- 7 ソンチン食品
- 8 矢
- 9 線香
- 10 杉細工

9



7



10



8

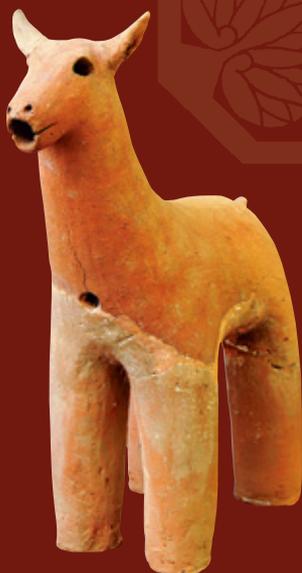




善光寺楼門

Gate of Zenko-ji Temple
国指定有形文化財

室町時代の建立様式の特徴を示す貴重な建造物です。平屋建てですが、屋根裏の建築部材から、当初は2階建てとして建立されていたものと考えられるため、「楼門」としています。



埴輪(鹿)

Clay Figure "a Deer"
県指定有形文化財

柿岡西町古墳から出土した鹿形の埴輪です。鹿特有の斑点も表現された優品です。鹿は古代から神聖な動物とされていました。

古来より人々の生活が営まれてきた石岡市。
温暖な気候と豊かな水資源に恵まれ、
常陸国における政治・経済・文化の
中心地として栄えました。
時代を超えて今に息づく、
まちの歴史や遺産を巡ってみましょう。

石岡の歴史を ひもとく

古都1300年

1300-year historic city Exploring the history of Ishioka
People have made their living in Ishioka City since ancient times. The city is blessed with warm weather and rich water resources; the city flourished as a center of politics, economics, and culture in Hitachi-no-Kuni. Let's explore the city history or thriving heritage throughout the ages.



佐久の大杉

The big cedar tree in Saku
県指定天然記念物

鹿島神社に御神木として保存されている推定樹齢1,300年の巨木です。鹿島神社は室町時代の創建で、その時代で既に1,000年近い杉と言われていました。



舟塚山古墳

Funatsukayama a Burial Mound
国指定史跡

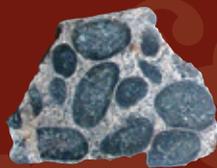
およそ5世紀前半に築造されたと推定される全長186mの前方後円墳です。県内最大、東日本でも第2位の大きさを誇ります。



球状花崗岩(小判石)

Orbicular Granite
県指定天然記念物

玉子状の堅い粒が不規則に散財する世界的にも珍しい花崗岩です。小判の形に似ていることから、「小判石」とも呼ばれています。



常陸国分尼寺跡

Hitachi Kokubun-ji Temple Remains

国指定特別史跡

天平13年(741)の聖武天皇の勅願によって国ごとに建立されました。史跡公園として整備が進められ、市民の憩いの場として親しまれています。



常陸国分寺跡

Hitachi Kokubun-ji Temple Remains

国指定特別史跡

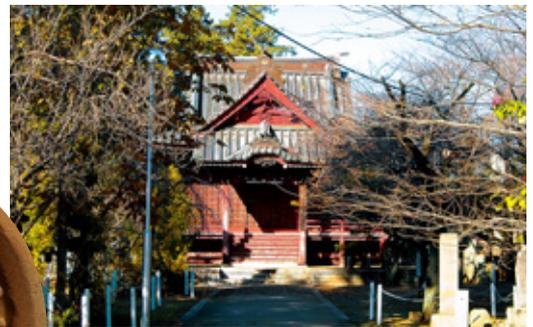
発掘調査の結果、中門・金堂・講堂が一直線に並び、中門から金堂にかけて回廊が巡っていることがわかっています。

常陸国分寺跡出土の軒丸瓦

Eaves-end Tiles Found in Excavation of Hitachi Kokubun-ji Temple Remains

市指定有形文化財

仏教の影響を受けているため、軒丸瓦は蓮の花、軒平瓦は唐草文様が付けられています。同じ文様の瓦が、国分尼寺・国府跡からも出土しています。



常陸国の中心地として栄えた軌跡をたどる

石岡市に人々が住み始めたのは、旧石器時代の頃からです。古墳時代になると、茨城県内で最大の古墳、舟塚山古墳が出現しました。

6世紀の中頃に石岡は常陸国の茨城郡に属しました。天平13年(741)、聖武天皇が国家安泰、五穀豊穡を祈るため、諸国に国分寺建立を命じました。そこで常陸国には国府が置かれ、現在の国分寺境内に国分寺、府中小学校の裏に国分尼寺が建てられました。

地下の正倉院と言われた鹿の子C遺跡は、奈良時代の終わりから平安時代初めに造られた、農耕用具や武器・武器などを生産した国が経営する工場跡です。

そこで発見された漆紙文書から、当時の常陸国の人口は22万から24万人であったことが推定されています。

中世になると、豪族の覇権争いが勃発します。地方行政官庁である国衙には、50人を超する庁官人が政務をつかさどり、国を支配していました。その中でも、桓武天皇の血を引く高望王を始祖とする常陸大掾氏は、最高権力者としてその任を担ってきました。

また、国府跡(石岡小学校)に隣接して、国衙機構の中でも重要な位置を占める常陸國總社宮が建っています。市内には当時の政治的支配を物語るさまざまな文化遺産が残されています。



近世から近現代へ
街並みの
形成と発展

都々一坊扇歌堂

Dodoitsu-bou-senka-do
市指定有形文化財

常陸国分寺跡の境内にあり、都々逸の創始者で、石岡市で亡くなったとされる都々一坊扇歌(1804~1852)を記しています。

石岡の陣屋門

Gate to Ishioka Administration
Building
県指定有形文化財

文政11年(1828)建築。石岡小学校の校門となっていました。昭和44年に校内敷地に移転、平成26年11月には元の位置に極めて近い市民会館駐車場内に移築しました。

明治期には、恵まれた交通条件と水資源によって、石岡地方は県内最大の醸造のまちとして発展したほか、製糸業も盛んになりました。

当時の街の基本的骨格は、現在の石岡市街とほぼ変わっていません。政治の中心であった府中は、商業活動が早くから発展し、諸国の商人が行き交う商都としてにぎわいました。江戸と常陸国を結ぶ霞ヶ浦水運によって、薪炭や農産物が高浜の河岸から江戸に運ばれ、明治初頭まで大いに活気づいていました。

江戸時代になると、石岡市には徳川光圀の弟である松平頼隆を藩祖とする府中藩が置かれ、水戸徳川家の分家4藩の一つとなりました。藩は定府と定められ、藩主は江戸に居住し、代わりに石岡に陣屋が置かれ、行政の中心地となりました。

今に息づく
商都のにぎわい





佐久良東雄旧宅

Former Residence of
SAKURA Azumao

国指定史跡

井伊大老襲撃者をかくまった罪で獄死した19世紀の勤王歌人、佐久良東雄の生家です。建立は18世紀中頃から末頃と推定されています。



坂入家住宅

Sakairi residence
国登録有形文化財

石岡地方の大規模農家の姿を伝える民家です。「トオシモノ」と呼ばれる縞模様の軒付けなど、茅葺屋根は見応えがあります。



筑波山碑

Mount Tsukuba monument
市指定有形文化財

筑波山を礼賛する漢文が刻まれた石碑です。筑波山そのものが御神体であり、碑の建立は恐れ多いとする意見があったことから、麓の宝園寺境内に建立されたことと伝えられています。



大場家住宅

Oba residence
国登録有形文化財

江戸末期建築の茅葺き民家です。規模が大きく見応えがあり、あちこちに高度な装飾技術が見られます。特にキリビと呼ばれる棟飾りは、差し込んだ竹の小口に色を付けて松竹梅を描いている、珍しいものです。



石岡の一里塚

Milestone in Ishioka
県指定史跡

主要街道の一里ごとに設けられた一種の路程標です。旧水戸街道の府中から長岡に通じる街道の両側に残り、江戸時代の交通政策を知る上で重要な史跡となっています。

常陸 風土記の丘

Hitachi-Fudoki-no-Oka

歴史の里石岡を体験できる歴史公園です。復元された古民家をはじめ、市内で出土した土器などの考古資料を見学できます。テーマ別特別展示や体験学習、講座など、見るだけではなく楽しく学べるイベントも開催しています。

また、四季折々の花を楽しめることでも知られており、特に桜の季節には多くの人が訪れます。敷地内には、50本のソメイヨシノ、150本のシダレザクラ、300本のボタンザクラがあり、鮮やかに色づいた花を堪能できます。石岡のおまつりにちなんだ日本一の大きさを誇る獅子頭展望台は、石岡市のランドマークにもなっています。



石岡

遊覧マップ

Ishioka sightseeing map



A

B

C

- …歴史文化財・観光施設
- …公共施設など



筑波山

筑波山
ロープウェイ
筑波山
ケーブルカー

至下妻

つくば市



拡大図①



拡大図②



土浦市



至桜川

至笠間

1

2

3

4

A

B

C

いしおか×みらい

夢のカタチ

一人ひとりが思い描く石岡の未来。

小さな夢も大きな夢も

石岡の可能性を広げる原動力となります。

市民の皆さんに石岡市の未来について

尋ねてみました。

未来の石岡をつくり出す市民の皆さんの思いを

紹介します。



安藤 哲哉 さん



小林 升明 さん



座古 智史 さん

塚原 達也 さん



真家 朋華 さん



櫻井 美保菜 さん



白井 育夫 さん

大内 裕子 さん

Each citizen imagines an individual future in Ishioka. Small and big dreams will expand the possibilities of the city. We asked our citizens about the future and their dreams of the city. We introduce the opinions of citizens who will shape the future of Ishioka.

